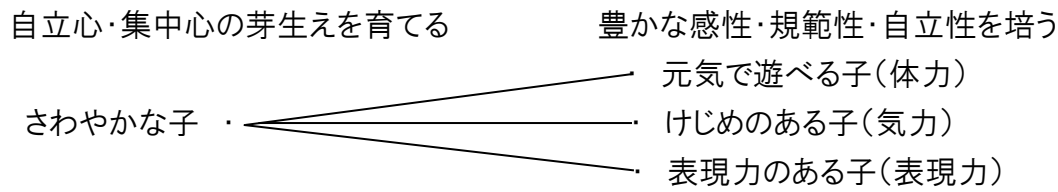


令和3年度 学校法人とくとう学園黒田幼稚園 学校評価

1. 本園の教育目標

(教育目標)



(学年目標)

- ・遊べる子(年少)
- ・夢中になれる子(年中)
- ・聞くことのできる子(年長)

(指導指針)

優しく、丁寧に、理を分け、可能な限り具体を通して納得のいく指導に努め、聞き入れる力・行動に移せる力を高める指導を進める。

(指導の重点)

望ましい環境構成に努め、園児の理想的な成長を促す

- ・生涯学習理念で教育を進める
- ・自立と共生、気力と体力の調和的発達を目指す
- ・「一園一学級」を旨とする
- ・小学校との連携を大切にする

(今後取り組むべき課題)

- ①ECEQの学びを活かした教育の質の向上を目指す。(コロナ禍における保育の充実)
- ②保護者とのコミュニケーションの充実。

2. 教師の自己評価とそれに対する学校関係者評価結果

評価基準/A:当てはまる B:どちらかと言えば当てはまる C:どちらかと言えば当てはまらない D:当てはまらない

(1) 保育の計画性

主な評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評価	取り組み状況	評価	ご意見・ご感想
指導計画は、園の方針を踏まえ、子どもの実態などを考慮して作成している。	A	一園一学級の考えを大切にし、学年ごとのレベルにあった保育に努めている。コロナでも園の方針は曲げずに、形は変わっても実施できている。 学年会議などで子ども達の表れを話し合いながら、できること・変えていくべきことを協議し、指導の方法を計画している。	A	毎年作成している製作が兄姉の時と同じで、もう少し変化があるといい。 子ども達にとっては初めての行事・活動なので、コロナ前と比較するのではなく、もっと物事をポジティブに伝えて欲しかった。
子どもの記録を大切に、次の保育に生かしている。	A	過去のエピソードから次の保育で起こりうる事態を予測し、どこに指導のポイントを置かかを考えて保育を行うようにしている。 一人ひとりの成長に気付き、子どもの「やる気」を引き出したり、自信をもって生活することができるように、記録をとり保育に生かせるようにしている。	A	マラソンごっこカードや動物オリンピックなど、子どもたちの『やる気』を引きだしてくれていて助かる。 動物オリンピックや縄跳びなどの記録は親としても子どもの成長を感じることができた。また、お誕生カードをもらうと、とても嬉しそうに話をしている、先生方の指導の温かさを感じる。子どもの苦手を理解し、無理なくやる気を引き出し、出来た時には認めてくれて自信につながった。

(2) 保育の在り方 幼児の対応

子どもの健康と安全には、常に配慮している。	A	怪我や危険がないか常に環境設定を意識している。また、活動前には「気を付けること」「危ないこと」を伝えて、子どもたちが自分で身を守る指導もしている。 コロナ感染対策には意識を強く持ち保育をしているが、子ども達が小さいだけに自由遊びなどでは密が避けられない場面がある。	A	マスクをして、外でもっと遊ばせたかった。遊べるのはこの3年間しかなくお友達とおもいっきり外で遊ばせたかった。
子どもが好きである。子どもに共感し、一人ひとりの良さを認めている。	A	楽しい時、悲しい時、一生懸命な時、子どもの表情は素直で可愛い。言葉にできなくても溢れ出ている気持ちを感じ取り、共感しようとしている。大人では思いつかない発想や発見があり日々子ども達から学んでいる。 意思表示が苦手な子どもへの気配りを特に意識し、全員が伸び伸び表現できる環境作りを心掛けている。	A	ごっこ遊びの話し合いの仕方が、個々の意見を大事にしている素晴らしかった。 子ども一人ひとりをよく見てくれていると感じる。先生の声かけが子どものやる気を引きだしてくれている。
個と集団を大切にしたい保育を行っている。	B	個と集団を意識して、メリハリのある保育を心掛けているが、一人担任では難しく上手くいかないときがある。 思い(相手の気持ちや自分の気持ち)や考えが心に伝わるように保育している。その中で集団で伝えたいこと・向き合って伝えたいことを意識している。	b	

(3) 保育者としての質の向上のための努力・良識

幼稚園教諭としての指導の「引き出し」を多くしようと心がけている。	A	他のクラス的环境構成や黒板・掲示物に保育活動の様子が伺えるので参考にしている。 子ども向けの映像を見たり活動のヒントになる本を読んだり、保育の質が高められるよう努めている。	A	
守秘義務を果たしている。	A	園外では個人的なことは話さない。 守秘義務厳守は徹底している。	A	

(4)保護者への対応

園だより、クラスだよりなどを通して子どもの様子・教育内容を発信している。	B	クラスだよりを連絡アプリにアップすることで、写真を多く載せることができ、文字だけでは伝えられないことが伝えられるようになった。今後も保護者と子どもがコミュニケーションのきっかけになるように積極的に配信したい。 アプリの写真と文を通して、クラスや学年の雰囲気をそのまま伝えたり、じっくり読んでほしい子どもの姿はおたよりにして伝えるなどして使い分けている。	A	クラスのちょっとした出来事も写真で連絡アプリにアップしてもらうことで、クラスの雰囲気がわかりよかった。コロナ禍で園に保護者が行くことが減ったので余計に写真での報告ありがたい。ダウンロード出来たら嬉しい。アップする頻度がもう少し増えるといい。 おたよりはとても楽しみにしている。園が大切にしていることが本当によく伝わってきて心が温かくなる。
保護者とのコミュニケーションを大切に、子どもの様子を共通理解している。	B	長期休暇時や欠席が続く子の家庭に電話することで、家庭と幼稚園が繋がる。また子どもの状況把握ができ理解につながる。 個人面談で子どもの様子を伝えられてよかった。12月の希望面談はコロナ感染拡大で中止になって残念だった。	A	送迎で担任の先生とあった際に、子どもの様子や頑張っていることやいいところを伝えてくれるので信頼して預けられる。 コロナ関係の個人情報に関わることで、伝えられること・伝えられないこと・本当は伝えたいことなど判断に苦しむ中、よくやってくれていると感じ安心できる。

(5)地域の自然・社会との関わり

地域の自然や施設・機関を保育に活用している。	B	コロナ禍により施設は活用できなかったが、今年度はみどりの広場へ季節を変えて行き、見える景色や自然の違いをより身近に感じることができた。 園外に出たり、施設に行くことはできなかったが、ごっこ遊びのイメージを広げるために、浅間神社や商店街へバス見学ツアーを企画。感染対策をしながらも活動につなげることができた。	B	園外保育は感染者が減った時に行くなど、もう少し柔軟に対応してもよかったと思う。⇒園外のトイレ使用など十分に安全が確保できないと判断し、行くことができなかった。 大人は「〇〇に行けなくてかわいそう」と思うが、子どもにとっては幼稚園から離れた所へ冒険に行くことは、どこへ行っても貴重で特別な体験だ。(商店街のバスツアー・小学校巡りなど)
------------------------	---	--	---	---

(6)研修への取り組み

年に一回以上は外部研修に参加し保育に役立っている。	B	今年リモートの研修ができたため、園にいながら学ぶことができ保育に生かされた。 リモート研修や外部の情報を園内で職員同士で共有し、保育の質の向上を目指していると思う。	B	
本園の研修主題に沿った保育を実践することにより、子どもを深く理解し、成果に繋げる努力をしている。	B	子ども主体の保育では一人ひとりの個性や子どもを知るきっかけにもなる。より良い保育を目指し、子ども理解に繋げるように努めている。 食育の一環として野菜栽培を試みているが、教材を十分に活用するために、成長の過程を追いながら子どもに発見を与えられるような知識や言葉掛けがまだ必要であると感じる。	B	私たちは自然界のすべてのものと共存して生きているので、虫や生物・植物・食物について大人がもっと知って学びの場に来たらいい。

(7)園運営

子ども達が育つ園行事を企画し実施している。	A	子ども達の現状をしっかり見つけ、変化をさせながらもメイン行事の大切さ(過程を含め)を実感してきた。コロナで制限は多かったが、その中でも子どもの成長を感じられた。 コロナ前のような行事の企画が難しくても、人数制限をしたり、やり方を変えたりして『子ども達にとって何が一番良いのか』を常に考え話し合って実施することができた。	A	「コロナ禍でも何としても行事はやってあげたい」「行事を大切にしたい」という園の考え方がすごくよく伝わった。 コロナ禍でもできることを常に模索してやってくれているのがとてもよい。園や教諭としての悔しさ、もどかしさはあるでしょうが、保護者としたら感謝。
園の思いを伝える努力と保護者の希望をくみ取る努力をしている。	A		A	アンケートは必要ない。黒田幼稚園をいいと思い選んで入園したので、保護者の意見に左右されないでいて欲しいと思うこともあった。 時代の流れの中で、伝統や理念は変えずに日々改善しているのは素晴らしい。変化が目まぐるしくてついていけない時もある。

3. 学校関係者評価委員からのその他のご意見・ご感想

<p>他園にない魅力がたくさんあり、園と保護者が一体となって子どものために協力する姿が好きです。これからも『黒田幼稚園らしく』他園に流されず教育理念を貫いて欲しい。主人の通っていた頃と変わらぬ黒田幼稚園に感動しました。共働きが当たり前の時代になり先生方の負担も増えてしまうかと思いますが、役員が少しでもお手伝いをして行ければいいと思う。保護者と園で一致団結してコロナを乗り越えましょう。</p> <p>毎日の保育計画はもちろん、各行事のあり方・計画に「コロナでも工夫してできる」「コロナだから育った」の取り組みが見られ、その成果の現れが、“職員の自己評価”保護者アンケート結果”からも伝わる。長期にわたるコロナ禍で何かをあきらめる保育ではなく、これまでの保育の良さを土台に、この環境で生まれた工夫と子どもへの思いが詰まった新たな保育を日々行っていることで、子どもたちや保護者に園生活の楽しさや充実感・新たな発見や感動が伝わっている。子ども達にとってかけがえのない一年。明日に期待を持ち楽しみにできる毎日があるのは、日々の努力からなる丁寧な保育と保護者の理解と協力、何より先生と保護者が愛情いっぱい子どもたちを包み、そこに元気な子どもの姿がそろうている素敵な園だからだと思う。</p> <p>感染対策も園運営にしても、①子どもにとってのベスト(成長・経験)②保護者の理解(安心)③教員の働き方改革の3つの視点で考えていく必要があり、一石三鳥になるアイデアを生み出すことはとても大変。コロナは精選すべきものを見直すよい機会になっていると考えている。</p>
--

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
ECEQの学びを活かした教育の質の向上を目指す。(コロナ禍における保育の充実)	コロナ禍における行事、保育内容を見直し、子どもが主体的に学ぶことができる保育環境を設定する。 栽培や本(図鑑など)などからの食育推進を図り、プランター栽培の充実。 園外活動の工夫と充実
保護者とのコミュニケーションの充実	個人面談・希望面談を取り入れコミュニケーションを図る。 4・5・8月には電話対応によるコミュニケーションをとる。 出席ノート(シールノート)を使い月ごとの子どもの現れを保護者に伝える。